

# IoTのシステム開発を強力にサポート ～イベント駆動型フレームワーク「HAF/EDC」を機能強化～

「Hitachi Application Framework/Event Driven Computing」(以下、「HAF/EDC」)は、大量データを分散環境で高速に処理できる、イベント駆動型<sup>※1</sup>のシステム開発基盤・アプリケーション実行基盤です。2017年9月、「HAF/EDC」のIoT<sup>※2</sup>機能を強化。IoTのシステム開発に必要な仮説検証を短期間に効率よく実現し、急増するデータ量に合わせてスムーズに拡張できるシステム開発基盤を提供します。

※1 データの到着(イベント)をきっかけに、異種混在するデータを一定のルールに従って振り分け、データの種別に応じた業務ロジックを実行できる処理モデル。  
処理全体の流れを小規模な部品単位でプログラミング可能

※2 Internet of Things

## IoTを活用した高付加価値なサービス創出を支援

社会インフラをはじめとするさまざまなシステムでIoTの活用が進んでいます。たとえばスマートメーターのデータ分析によるエネルギー供給設備の統合的な運用管理に加え、産業分野での生産設備の稼働状況データの可視化・分析による生産性向上など、その活用の幅はますます広がっています。

一方、IoTのシステム開発では、仮説検証を繰り返しながら価値を創出していくため、システム要件を明確にしてから

開発に着手する従来のシステム開発とは異なるアプローチが必要となります。2017年9月、「HAF/EDC」は、IoTに共通して必要となるデータ処理モデルを「格納/分析/参照」のプロセスとしてあらかじめ定義し、標準的な手順に沿ってデータを効率的に処理できる「IoT共通フレームワーク」を新たに製品化しました。これにより柔軟なシステム開発と高効率な仮説検証を実現し、お客様のIoTを活用した高付加価値なサービス創出を支援します。

## 「HAF/EDC」の特長

### ■ 手軽に“試せる”

分散データベース「Apache HBase」や機械学習ツール「KNIME<sup>ナイム</sup>」、データ統合・分析基盤「Pentahoソフトウェア」などの各種IoT向けOSS・製品と容易に連携可能。ビジネス要件の変更を柔軟に取り込みつつ、効率的な仮説検証を可能にし、短期間でのシステム構築を実現します。

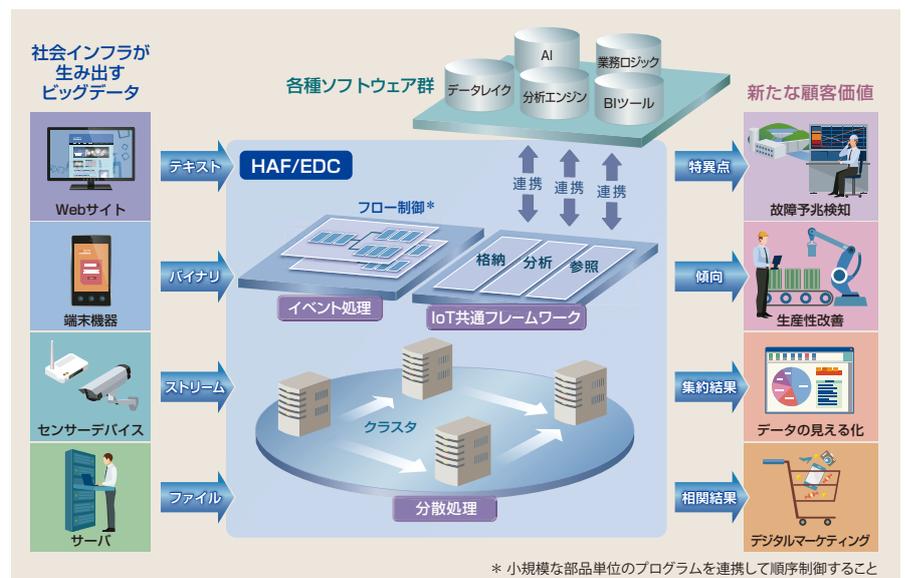
### ■ 素早く“分かる”

大量データやAIを用いた高負荷な分析を、複数のサーバで効率的に分散処理可能。分析・検証結果がすぐに分かるため、データの価値化、新サービスの創出を加速します。

### ■ 手間なく“増やせる”

データ量が急増しがちなIoTシステムでは、データ量の増大に対応した柔軟な拡張性が求められます。「HAF/EDC」

は、サーバの増設によりサービスを止めることなく処理性能をリニアに向上可能。自動的にクラスタ構成を変更するアーキテクチャにより、仮説検証環境から商用システムにスムーズに移行できるため、初期投資と運用コストを抑制できます。



「HAF/EDC」適用イメージ

### お問い合わせ先

(株)日立製作所 社会システム事業部  
E-mail: haf\_edc@itg.hitachi.co.jp

■ 情報提供サイト  
[http://www.hitachi.co.jp/HAF\\_EDC/](http://www.hitachi.co.jp/HAF_EDC/)